

## 「つなぐ力」は教師の専門分野

2024・4・5 重枝 一郎

学校は、集団生活を通して学ぶ場である。人間関係の善し悪しが、教育活動の質を左右する。だから、学級経営をするにしても、授業をするにしても、人間関係づくりは重要課題と言える。今年度当初の「校長研修だより」は、「人間関係づくり」について書いていく。新年度のマインドセットをしよう。

### 人間関係づくりのビジョン

#### ◆ 人は人で磨かれる 「自尊感情」＋「自己盲点」＝「自己理解」

出会い 『お互いを知ろう』 安心感・期待感・ふれあい

団 結 『協力体験』 自己存在感・所属感

仲 間 『信頼関係』 他者理解

※マイナスのグループ・暗い表情・表面的にならないように支援

認め合い 『よいところさがし』 自己盲点を獲得させ自己理解を深める

※すべて「大切なひとり」につながる

### 教師のリーダーシップ

#### ◆ 先のビジョンを示す 「初等効果を活用（4月）」＋「ゆるみを修正（6月）」

1学期の「荒れ」は目立たない。2学期は「問題行動」が表面化してくる。3学期の「荒れ」は学級崩壊。荒れさせないために、まず年度当初は「維持ルール（みんなが安心・安全で過ごせる）」を「契約」し、次にゆるみが出る6月に「再契約」をし「向上ルール（もっとよくしていくことはできないか）」に発展させる（もちろん「向上ルール」ができればいいのだが、せめて「維持ルール」の維持につなげる）。それが、「誰とでも組める力」（2学期テーマ）の育成につながる（9月に「再々契約」）。生徒にも「崩壊」の流れのイメージを伝えることも大切である。

#### ◆ ルールを定着させるために

①やり方を示す（教示的） → 意義を説く（説明的） → 一緒に楽しむ（参加的）

→ 任せる（委任的） ※年間のビジョン

②係活動で評価（一人一役制）

③「維持ルール」をコーチングでつくる

④人間関係づくりの演習を取り入れると同時に、ルールの必要性（ルールがあるからみんなと仲良くできる）を実感させる。

⑤活動をする中で、学習ルール、生活ルール、対人ルール（3つのルール）を「契約」し、どんなことを大切にしている学級なのか、意味の共有、感情の共有、行動の共有（3つの共有）を図る。そして、「向上ルール」で「維持ルール」を「再契約」する

※ ルールが定着しないと人間関係の不安を高める。その不安をごまかそうとして、同調的な行動をしたり、排他的なグループを形成したり、自己中心的に振舞う生徒が出てくる。ルールを定着させる過程が人間関係づくりにもなる。

教科指導の専門性はとても大切である。しかし、それだけが教師の専門性ではない。いつの時代も、生徒同士をつなげたり、生徒とつながったりする力・・・「つなぐ力」「つながる力」が、教師の専門性の一つになる。だから私たちは全教育活動を通してそのことを意識的に実践しなくてはならない。「教科」「係活動」「はないち」「部活動」「行事」・・・全てを通して。